

令和2年度



令和3年

2月

右田中学校だより

防府市立右田中学校

TEL 22-0984

第2学年「立志の集い」を挙行

全校生徒数388名

2月12日(金)、第2学年の立志の集いを実施しました。これは、数え年15歳で成人するという元服式に習い、大人への自覚を深める行事です。今年は、2年生が学級ごとに分かれて、一人ひとり「立志の誓い」を発表し、保護者の皆さんにも見守っていただきました。その後、体育館で学級代表生徒の決意作文を聞いた後、最後に学年合唱で「果てない空」を披露しました。スクリーンには、「立志の書き初め」として一人ひとりが決意を込めて書いた、四文字熟語の「初志貫徹」「勇往邁進」などの習字も大きく投影されました。多くの保護者の皆様や学校運営協議会委員の皆さんにもご来場いただきました。



【立志の作文(抜粋) 右田中2年 柴崎嘉向】 僕の将来の夢は、たくさんの人を助けることです。理由は2つあります。一つ目は、テレビで東日本大震災の映像を見たことがきっかけです。そこには、家が崩れて住む家がなくなった人たちが、避難所で苦しんでいる姿がありました。それを見て、僕は苦しんでいる人々を助けたいという気持ちが芽生えてきました。二つ目は、小学校の時、社会見学で消防署に行ったことです。消防士さんのお話を聞いていくうちに、人を助けることはすごくカッコいいことだと思うようになりました。人を助けると、多くの人喜び、感謝してくれます。そうすると僕も大きな喜びを感じることができます。僕は、中学校を卒業したら高校進学し、たくさんの資格を取りたいと考えています。資格をたくさん持っている仕事は選択肢が増え、夢である人を助ける仕事にも就けると思うからです。このようなことを踏まえて、僕は大人になったら、人のために動き、多くの人から感謝される人になりたいです。

第1学年「キャリア・ワークショップ」を開催

2月19日(金)、1年生対象のキャリア・ワークショップを開催しました。これまで1年生は、自分が興味をもっている職業について調べ、画用紙にまとめて、クイズも交えながらクラスごとに発表してきました。今回は、国際コーチング連盟ACC認定コーチの桑原奈緒子さんから、「なりたい自分」になるための方法や考え方などをお聞きすることができました。「どうしてそう思うの?」と問いかけながら、考えを深めるコツも学びました。



生徒1人1台のタブレット型パソコンを使った学習

生徒1人1台のパソコン端末と、高速大容量の通信ネットワークを整備するギガスクール構想によって、本校にもタブレット型パソコンがやってきました。昨年11月に3年生全員に、今年2月には1、2年生用も配付されました。これからの子どもたちにとって、コンピュータ端末は、鉛筆やノートと並ぶ学習用具となっていきます。受験を控えた3年生は、朝学習の時間に、全員がタブレットでドリル学習をしています。自分で教科や問題を選んで、5問程度の問題に挑戦します。回答は選択肢で答えるものや、指で文字を書くものなどがあります。間違うと、ヒントのページが示され、もう一度考えてから、再度同じ問題に挑戦します。自分の苦手教科を選んで、進度に合わせて学習に取り組んでいます。



小型拡声器の活用

右田地区防災士等連絡協議会長から、小型拡声器を12台、御寄贈いただきました。新型コロナウイルス感染予防のため、マスクを着けたまま、説明したり発言したりする機会が増えています。特に中学生は、発言に自信がなかったり、声が聞き取りにくかったりする場面も見られます。いただいた拡声器を活用し、多くの人に連絡したり、思いを伝えたりする練習をしていきたいと思っております。こうした経験を積むことで、将来、災害時の明確な情報伝達や社会貢献にもつながることを期待しています。



令和2年度右田中学校学校評価

2月12日開催の学校運営協議会において、学校関係者評価を受けましたので、概要をお知らせします。学校評価書は、本校ホームページに掲載しています。

【学習指導】評価【 B よい 】

- ・友達と話し合いながら課題を解決して学ぶ「アクティブ・ラーニング」の視点から、授業を改善していることは、評価できる。
- ・「やらされる勉強」や「外発的動機付けに裏付けられた学習」になっていないか、点検する必要がある。興味をもって調べたくなるようなテーマの絞り込みを望む。

【生徒指導】評価【 A たいへんよい 】

- ・生徒会が、あいさつの声の大きさなど、日常生活の行動レベルを具体的に示して、より高い目標にチャレンジしていることを評価する。自分たちで目標を決め、実行することは、その内容に責任をもてることになり、大変良い。

【心の教育】評価【 A たいへんよい 】

- ・道徳研究指定校としての実践が、生徒の姿として体現されている。
- ・道徳教育を実践力の育成に直結すると、本来の趣旨から離れてしまう。いじめ解決等の行動決定型でなく、道徳的価値を追求する授業であってほしい。

【校内研修】評価【 B よい 】

- ・教員が相互に授業を参観し合うなど、先生方の「授業力」向上のための積極的な取組は評価できる。
- ・道徳の授業を工夫することが、各教科の授業力向上につながっている。
- ・教員が教科の枠を超え、授業の分析力や評価力を身につけることを目標としていただきたい。

【地域連携】評価【 B よい 】

- ・学校生活について児童生徒や保護者が評価するアンケートで、小学校と中学校の項目を揃え、共通課題を明確にして実践につなげたことは成果である。
- ・中学生本人も保護者も「地域から守ってもらおう存在」と認識している。中学生の自主的な地域行事への参加を望む。

【次年度への具体的な改善策】

- ・「伝え合う活動」を取り入れた授業改善を進め、深い学びや確かな学力につながるように工夫する。
- ・生徒の学力向上対策として、1人1台のタブレットの活用、家庭学習による定着、早朝やテスト期間中の勉強会による補習、等について工夫する。
- ・各行事において、一層生徒の主体性を大切にして企画し運営する。
- ・基本的な生活規律の向上に向け、生徒会活動を活性化し、生徒の自主的取組を推進する。
- ・道徳授業と体験活動の充実や、適切な人間関係づくりの取組を通して、いじめのない学校づくりを進める。
- ・学校運営協議会や右玉子ネットへの教職員の積極的参加を促すと共に、行事精選や業務負担の平準化を図る。

立志式校長式辞（抜粋）

皆さんが4文字熟語で、立志の決意を表現してくれました。私も、4文字熟語をひとつプレゼントします。これは禅宗の言葉で、「脚下照顧（きゃっか しょうこ）」と読みます。「足下をよく見る」という意味で、お寺に上がるとき「履き物をそろえる」という場面で使われます。もう一つの意味は、「ほかに向かって理屈を言う前に、まず自分の足元を見て、よく反省すべきである」という戒めの言葉としても使われます。「自分自身をみつめる」ことの大切さを表している、意味深い言葉です。

私は、脚下照顧に、もうひとつの意味を感じています。それは、人生うまくいかないことがあったときのことです。失敗して、自分はもうだめじゃないかと思ったとき、自分の立っている場所をよく見てごらん。これまで気付かなかったけれど、支えてくれる大地があって、草も青々と生えている。大空には夢があるけれど、踏みしめる足下にだって大きな支えがあるはずだ。安心していいよ。そう言っているように思います。立っているのがつらかったら、しゃがんでみればいいんです。人は、背伸びしたままでは、ジャンプできないものです。今日の立志の集いが、自分を支えてくれる家族や友達、そしてまわりのすべての人に感謝し、あらたな飛躍への挑戦のきっかけとなるよう、心から祈っています。

※右田中学校のホームページにもアクセスしてください。

右田中学校

検索

<http://www.c-able.ne.jp/~hofumigi/>